

活動の指針、貫いていること、座右の銘などがあればお教えてください。

山本秀実(バイレ)

踊り手は踊りに偏りがちですが、やはりフラメンコは歌、ギター、踊りの三位一体であるべきと思います。

栗原武啓(ギター)

フラメンコの根本に近づくべく、毎日がんばっております。僕らは外国人になるわけですから、どうしたって本国のアーティストにはかなわないですよ！ でも、だから諦める気はなく、そこに近づけるようにといつも思っております。でも、たまに逸材が現れたりしますよね！ たとえば相撲でも、今は外国人のほうが強かったり……古典尺八の世界も、一時いちばん上手いと言われたのはアメリカ人のネプチューン海山というアーティストでした。勝手な思い込みでできないなんて思わず、努力すれば超えられるものもあるのかも、という思いも強くあつたりします。僕の取り柄は「スーパープラス思考」なんで、これからもずっとこれで行きたいと思っております。

中田佳代子(バイレ)

自分の信じたことだけ突き進む。

河野マヤ(バイレ)

「地に足のついた、どっしりとしたフラメンコ」をモットーに、活動しています。

柳谷歩美(バイレ)

いつもその瞬間は自由な新鮮な心で踊ること。

松村哲志(ギター)

フラメンコとは関係ないかもですが、できれば毎日自然に静かに生活していきたいと願っているの、気持ちいい景色が見える好きな場所で住むということが、自分にとって大事なことです。

田中菜穂子(バイレ)

フラメンコシューズをどこへでも持ち歩くことを密かに心がけています。

松岡恭子(バイレ)

フラメンコを始めたのが遅かった(40代)ので、より長く踊っていけるようにいかに身体を動かしていくか、つねに模索しながらマイペースを大切に。「土のおいと優美さ」がスローガン。基本を忘れずに、スペインの若いアーティストの刺激を受けつつ、自分なりのフラメンコを作っていきたい。私の経験が生徒たちに反映し喜んでもらえるようなレッスンをしていきたい。

川崎さとみ(バイレ)

座右の銘は「桜梅桃梨」。

すべての人にそれぞれの良さが備わっているという哲学です。

萩原淳子(バイレ)

つねに学び続けること。

自分自身に嘘をつかないこと。

決してあきらめないこと。

感謝を忘れないこと。

高橋英子(バイレ)
私にとって第2の故郷であり、現在も往復しているグラナダの古い唄や庶民の唄、踊りを教授活動や舞台活動に取り入れ、それらを日本で少しずつ紹介しています。そのことに少し使命感を感じています。